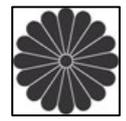


受賞者：自得地区環境保全会 (青森県弘前市)

天皇杯 受賞年：平成26年



むらづくりの経緯

- ・昭和47年4月に農事組合法人「鬼檜営農組合」が設立され、水稲作業の受託のほか、水路やため池の維持管理などが行われていたが、高齢化や担い手不足によって管理水準の低下が課題となっていた。
- ・平成18年に農地・水・農村環境保全向上活動支援事業のモデル地区の指定を受け、農業者と非農業者で「自得水土里保全隊」を設立した。平成24年度からは「自得地区環境保全会」に名称を変更し、継続的な共同活動を展開している。

受賞当時

生産活動の特色

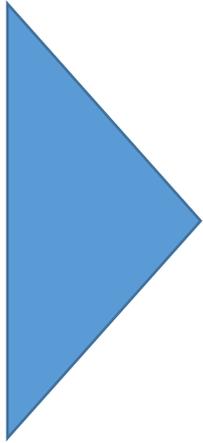
- 鬼檜営農組合が中心となり、水田作業の共同化による生産コストの低減及び省力化を進めたことで、農業者がりんごの生産に労働力を集中させることが可能となった。
- 早生系ふじ「ひろさきふじ」のブランド化に取り組み、上位等級品を「夢ひかり」(H11年商標登録)として出荷している。
- 鬼檜営農組合は、組合員以外の農地も含めて農地を積極的に集積しており、耕作放棄地の発生防止に貢献しているほか、夏季のミニトマト、冬季のアスパラガス伏せ込み栽培に取り組みすることで、地域の雇用創出につなげている。また、小麦をパン用品種「ゆきちから」に切り替え、全量を地元の小中学校の給食に供給。

地域づくりの特色

- 鬼が一晩で水路をつくったとされる「鬼伝説」や、文化10年(1813年)の津軽藩最大の百姓一揆を率いた「義民・藤田民次郎」の自己犠牲の精神伝承が、地域資源を生かしたむらづくり活動の素地となっている。
- 地域一体となって環境改善や清掃活動、一斉草刈りに取り組むほか、地元の小学校とPTAを対象に「お米学習田」を設置し、地域の基幹産業である農業の大切さや楽しさを伝えている。
- 毎年旧正月に「鬼神社」で行われるハダカ参りには、地域住民のほか地域外や外国人の参加も多数見られる。
- 地域外のNPO等と連携し、「鬼沢の会」にのりく作付・収穫バスツアーを開催するなど、交流人口の拡大に向けた取組が着実に進められている。

～受賞直後の効果～

- ・マスコミで取り上げられ、来訪者が増加
- ・鬼沢地域の取組が県内外に広く周知
- ・視察受入れ回数が増加(年6～7回)



現在

評価ポイントの取組状況

- 【生産活動】
- ・営農組合による水田作業の共同化により、りんご生産に集中することができるようになり、早生系りんご「ひろさきふじ」の品質向上につながる取り組みとなっている。
  - ・営農組合では、耕作が困難になった農地を引き受けるとともに、耕作放棄地を再生し、水稲や大豆の作付けに取り組んでいる。
  - ・令和6年度から、国産飼料の原料となる子実コーンの作付を行っており、今後作付けを拡大する計画としている。
  - ・水稲育苗苗の販売にも取り組み、苗生産数量の3分の2を地域外へ販売しているほか、育苗用ハウスを活用したミニトマトの栽培を継続しており、営農組合の収益確保につながっている。また、育苗とミニトマト生産に2名を雇用しており、雇用創出の取り組みとなっている。
- 【地域づくり】
- ・多面的機能支払交付金を活用した草刈りや景観形成等の共同活動に、多くの地域住民が参加しており、活動が定着している。
  - ・地域の鬼神社で行われる伝統行事「ハダカ参り」や津軽の鬼伝説を伝えるバスツアー、鬼伝説紙芝居の制作・上映などを通して、地域外との交流が積極的に行われている。

今後の展開

- 地域外の人との交流促進 (観光会社、グリーン・ツーリズム団体との連携)
- 新規就農者の定着促進

そめがおか

受賞者：染ヶ岡地区環境保全協議会

(宮崎県高鍋町)

内閣総理大臣賞  
受賞年：平成26年



## むらづくりの経緯

- ・染ヶ岡地区は、S40～50年代の基盤整備によりキャベツ、白菜の一大産地を形成。当協議会は農業資源の保安全管理等を目的にH21年に設立。
- ・H22年4月に口蹄疫が発生し、町全体が活気をなくし、畑に投入する堆肥の供給も無くなるなか、当協議会の農業者らが中心となり、緑肥として使用でき、地区の景観の向上にも寄与するひまわりの植栽を企画。35ha、500万本で始まったひまわり植栽は年々拡大し、H26年には80ha、1,100万本となっている。
- ・その景観を利用した「きゃべつ畑のひまわり祭り」が開催され、女性、若者の他、町全体と連携した様々な活動を展開。

## 受賞当時

### 生産活動の特色

- 非農家も含め農地・水環境保全向上活動に取り組み、農村資源の保全に取り組んでいる。
- 女性農業者グループ12名で構成する「農奥」は、キャベツの消費拡大に向け、主婦や高校生等を対象とした料理教室の開催、「ひまわりキャベツ」の商標権の取得、会員HPやFBIによるひまわり祭りの情報発信等を推進。
- また、女性たちが商工会議所による地場産農産物を活用した新料理「高鍋ロールキャベツ丼」の誕生に貢献。その他、キャベツ外葉の粉末を使用した焼ドーナツ、ロールケーキの特産品開発にも貢献。

### 地域づくりの特色

- きゃべつ畑のひまわり祭りは町、JA、商工会等が協力する町ぐるみの体制で運営。若者による子供達に人気の巨大な「ひまわり迷路」づくり、祭りへの出店の拡大、「農奥」のPR活動等により、H25年には1万人が参加する一大イベントに成長。
- 地区内の畑で小学生とともに行うひまわり植栽など、景観形成活動を推進。



地域ぐるみの資源保全活動



きゃべつ畑のひまわり祭り

～受賞直後の効果～

- ・受賞により、地区住民のモチベーションが高まった。
- ・地区の一体感が深まった。

## 現在

### 評価ポイントの取組状況

- 「農奥」による活動として、お染バーガー(米粉生地にキャベツ粉が練り込まれたバンズにキャベツをふんだんに使用したカツサンド)の製作をおこなった。また、広報ポスターやパンフレットを手作りで作成し、染ヶ岡地区のPRを令和元年頃まで行っていた。
- 平成25年に商標登録をした「ひまわりキャベツ」ののぼり旗をたてて、収穫作業をしている畑で、令和元年頃の収穫時期までは獲れたての新鮮なキャベツを直接販売していた。
- 景観形成活動においては、令和元年頃まで約80haの農地にひまわりの植栽を行い、平成29年度には「美しい宮崎づくり水と緑の景観賞」を受賞した。
- 「きゃべつ畑のひまわり祭り」が10年間の開催を経て一区切りとして令和元年から休止しており、また、協議会構成員の高齢化等もあり、協議会としての活動は現在休止している。



## 今後の展開

- 高鍋町では、後継者問題の解消を含め、新たな地域づくりの取組について検討している状況である。

受賞者： 宮地集落（岐阜県郡上市）

日本農林漁業振興会会長賞  
受賞年：平成26年



## むらづくりの経緯

○宮地集落は、岐阜県の中央にある郡上市の東部に位置する、和良町中央部の中山間地域の農業集落で、岐阜県の中心に位置する集落でもある。集落を流れる和良川は木曾川水系の源流で、その清流で獲れる「和良鮎」は「清流めぐり利き鮎会」でグランプリを4回達成した日本一おいしい鮎として知られている。  
○少子高齢化の進行により、住民の誇りである神社の文化伝承が困難となる危機感と、鳥獣被害、耕作放棄地による荒廃で集落の愛着が失われる懸念の中、平成8年から集落にある地域資源を生かしたむらづくり活動を開始。平成12年からは「中山間地域等直接支払制度」の集落協定締結をきっかけに、鳥獣害対策、雑草対策の効果的な資材器具の開発実証に取り組み、平成19年からの「農地・水・環境保全向上対策」で芝桜ロード等の景観整備活動を展開してきた。

## 受賞当時

### 生産活動の特色

- 鳥獣侵入防止柵「猪鹿鳥無猿柵」を開発・実証し、絆ベストを着て、花火発射器具の「退散鳥獣」で追い払いを行い、鳥獣被害が激減。侵入防止柵は県内外に普及設置している。
- 畦畔や法面の除草作業の省力化として、住民全員で防草シート、雑草抑制ネットを設置し、水稻作業の省力化を達成。
- 集落の担い手育成として、担い手に10a当たり1,000円を交付し、集落ぐるみの鳥獣害・耕作放棄地対策によって、担い手に農地の半分以上を集積している。
- 集落内に道の駅直売所が開設されて、少量の農産物でも販売する農家が増え、農家所得の向上と高齢者の生きがいづくり、健康維持につながっている。

### 地域づくりの特色

- 「退散鳥獣・草園（ふれあい農園）」の開設により、県内外の団体の視察研修、学生、親子の農業体験の受入が多くなり、祭礼への参加等、交流人口の増加で、文化伝承、集落の活性化につながっている。
- 手作りの公民館増築・エコステーションの建設、芝桜ロードやイラスト田んぼ等の設置・管理により、美化、景観形成が図られ、住民の集落への愛着と絆が醸成されている。
- 奥美濃パワースポット「神の居ます風景遺産・戸隠神社」として観光資源の整備を続け、町の冬の風物詩「ど真ん中ライトアップ」を長年開催している。またパワースポットマップ、祈願米、絵馬等を作成・販売し、地域の魅力発信を図っている。

～受賞直後の効果～  
・受賞により、個人や団体が誇りと自信を持ち、継続している生活環境整備や担い手育成活動に前向きに取り組むようになった。



「猪鹿鳥無猿柵」の簡易門扉



防草(幸作)シート・雑草抑制(幸作)ネットを設置

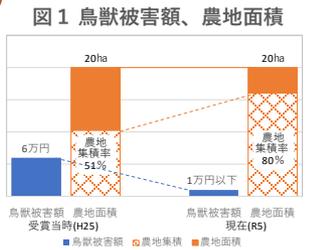


県天然記念物の一本杉ライトアップの様子

## 現在

### 評価ポイントの取組状況

- 鳥獣侵入防止柵等の改良・更新や追い払いの取組を継続しており、鳥獣被害はほとんどない。防草ネットの更新も継続している。
- 鳥獣被害や草刈りがなく、担い手が安心して農地を借りることができる条件が整っているため、集落の農地集積率は80%に達し、20haの農地面積が維持されている。
- 集落から下呂市につながるトンネルの開通や、戸隠神社がSNSで紹介されたことで訪問客が増加。御朱印や祈願米等の授与品の販売収益が増え、鳥居の改修が実現できたほか、ツアーバス受入れも始まった。
- ふれあい農園での体験交流は年に40家族、80人以上が農園の体験を行っている。
- 集落は高齢化しつつあるが、草刈りや水路清掃のほか、芝桜ロード、イラスト田んぼ、ど真ん中ライトアップなど、地域の景観形成と魅力発信を継続して取り組んでいる。



イラスト田んぼ(一本杉)



戸隠神社の御朱印、絵馬、祈願米

### 今後の展開

- 高齢化する集落の維持に向け、①担い手の確保、②病気の予防対策、③公共交通の確保に取り組むこととしている。
- 芝桜の管理等で体を動かし集まって話すことで元気な高齢者を目指すほか、下呂市内の駅へ往来ができる住民バスの実現を構想している。